

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	<p>ガザ地区とヨルダン川西岸地区において心的外傷を受けている子どもたちに対し、心的外傷後ストレス障害<sup>1</sup>（以下、PTSD）の完全発症の予防と一部発症の場合の症状改善を目的として、1年間、心理社会的ケア（以下、PSC）プログラムを通じた心的外傷ケアを実施する。家族や学校、関係機関等との連携を密にし、子どもたちへの包括的なケアを目指す。また、心的外傷ケアが多くの人々に必要とされる同地区において、本事業内に留まらず現地において継続的に心理社会的ケアを実施できるような体制を整えるべく、実践者（ファシリテーター）育成を行う。さらに、同地においてPSCについての正しい理解とその実践的プログラムの普及を目指した活動を行う。</p> <p>Conduct 1-year Psychosocial Care (PSC) program in Gaza Strip and West Bank for the children who have psychic trauma in order to prevent being full developed of PTSD or to improve symptoms in case of partially developed of PTSD. Cooperate with relevant stakeholders for comprehensive support. Besides, conduct capacity development for PSC facilitator trainees to prepare for the continuous PSC practice after the project. In addition, carry out dissemination activities to spread the correct understanding and practice of PSC.</p>
(2) 事業の必要性（背景）	<p>(ア) 現地のニーズ パレスチナの人々は占領という理不尽な生活環境の中で日々継続的にトラウマ体験や大きなストレスに晒され続けており、メンタルヘルスケアは喫緊の課題となっている。</p> <p>(イ) 活動地・事業内容 これまでガザ地区ラファ市の国境地帯に住む子どもたちに対してPSCを提供してきた成果を活かし、ラファ市をPSCモデル地域として発展させていくことを目指して同市でより質の高いPSC実施を目指しつつ、活動地域を拡大することで事業のスケールアップを図っている。そのためにラファ市以外の活動地として3地域選定した。①イスラエルとの国境から1.5kmに位置し、国境警備による射撃事件が頻発している危険地帯であるハンユニス市。西岸地区においては、②イスラエル入植地に隣接しているため衝突が絶えないヨルダン川西岸地区ジャラゾン難民キャンプ（2017年イスラエル軍が同キャンプに侵入した日数は200日弱）、③パレスチナの南北を結ぶ主要な検問所に隣接しているため衝突が絶えないヨルダン川西岸地区カランディア</p>

<sup>1</sup> PTSD: 心的外傷後ストレス障害 (Post-Traumatic Stress Disorder)。命の安全が脅かされるような恐怖とショックを伴う出来事（戦争、天災、事故、犯罪、虐待など）による精神的な外傷（トラウマ）の後遺症。主な症状として、回避症状（トラウマの原因となった出来事に関することを避けようとする心の動き）、侵入症状（「再体験」とも呼ばれるように、トラウマの原因となった出来事が悪夢やフラッシュバックを通して何度も繰り返されること）、過覚醒症状（自律神経の乱れや不眠など、身体が継続的に過剰反応している状態）などがある。PTSDに繋がる病態としては「記憶の倒錯、抜け落ち現象」、「記憶と感情の解離現象」の2つが挙げられ、トラウマ体験に向き合いその記憶と感情を思い出すことでトラウマ体験のストーリーを再構成していくことが回復に有効であるとされる。

	<p>難民キャンプ（2017年イスラエル軍が同キャンプに侵入した日数は200日強）。</p> <p>（ウ）第1年次、2年次事業の成果・課題、および対応策          &lt;ガザ地区&gt;ファシリテーター能力の強化と対外発信・広報の強化          &lt;ヨルダン川西岸地区&gt;WSでの効果を高めるためのクラス編成とPSC理解促進の強化          （詳細は別添2参照）</p> <hr/> <p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p>本事業は、イスラエル占領に伴う困難な状況下に暮らす子どもたちを対象に、PSCプログラムを通じた心的外傷ケアを実施するものであり、持続可能な開発目標(SDGs)の以下目標に寄与する事業である。</p> <p>目標3.「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」</p> <p>ターゲット3.4「2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。」</p> <p>目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p> <p>16.1 あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。</p> <hr/> <p>●外務省の国別開発協力方針との関連性</p> <p>本事業は、我が国対パレスチナ自治区国別開発協力方針の重点分野（中目標）「(1)人間の安全保障に基づく民生の安定と向上」に寄与する事業である。本事業では、イスラエルの占領下に置かれ、イスラエル兵による脅威が身近にあり、また行政サービスが制限され民生が悪化している西岸地区の難民キャンプ、および物資や医療サービスが厳しく制限され人道状況が悪化しているガザ地区を対象とし、そのような状況下で暮らす子どもたちに心的外傷のケアを行う。一年間を通して心理社会的ケアを実施することで、心的外傷に対する子どもたちの対応力を増し、困難な状況でもPTSDからの予防力がつくこと、または一部症状が出ている場合には症状の軽減を目指す。同時に、PSCファシリテーター育成とPSCモデルを普及させることを目指し、以って、パレスチナ自治区の民生の安定と向上に貢献する。</p>
(3) 上位目標	<p>上位目標1: ガザ地区および西岸地区の子どもたちが占領下における困難な状況下でもPTSDに対する対応力・予防力を身につける。</p> <p>上位目標2: 当該地区において、心理社会的ケアモデルが確立され、地元の人々によって心理社会的ケアが継続される。</p>
(4) プロジェクト目標	<p>プロジェクト目標1: ガザ地区ラファ市およびハンユニス市、西岸地区ジャラゾン難民キャンプおよびカランディア難民キャンプにおいて、対象の子どもたちのPTSDの完全発症が予防および一部発症の場合は症状が改善される。(上位目標1に寄与)</p> <p>プロジェクト目標2: ガザ地区ラファ市およびハンユニス市、西岸地</p>

	<p>区において、心理社会的ケアの知識と経験を持つファシリテーターが育成され、各事業地において本来の効果的な心理社会的ケアモデルが根付く準備が整う。(上位目標 2 に寄与)</p> <p>プロジェクト目標 3: ガザ地区と西岸地区において、一般的な心理社会的ケアの認知度が向上し、心理社会的ケアが普及するための基礎が築かれる。(上位目標 2 に寄与)</p>
(5) 活動内容	<p><b>1. ガザ地区における心理社会的ケアの実施と普及、実践者育成</b></p> <p>ラファ市の「エルアマル社会復帰協会」(Al Amal Rehabilitation Society) とハンユニス市 2 団体「ブリリアント・フューチャー協会」(Brilliant Future Association)、「アバサン地区町会内」(Neighborhood Committee of Abasan Al Jadida) と提携し、各団体の子どもたちとスタッフを直接裨益者として事業を展開する。年間スケジュールは、別添 Project Activities 参照。</p> <p><u>1-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施</u></p> <p>1-1-1. ワークショップの実施</p> <p>1-1-2. 相互理解アクティビティ</p> <p>1-1-2. 最終発表会の実施</p> <p><u>1-2. 関係者・関係機関との連携</u></p> <p>1-2-1. 情報交換ミーティングの実施</p> <p><u>1-3. 心理社会的ケアプログラムのファシリテーター育成</u></p> <p>1-3-1. ファシリテーター育成研修の実施</p> <p><u>1-4. 心理社会的ケアプログラムの普及</u></p> <p>1-4-1. メディア活動</p> <p>1-4-2. 心理社会的ケア説明会・映画上映会の開催</p> <p><b>2. ヨルダン川西岸地区における心理社会的ケアプログラムの実施と普及、実践者育成</b></p> <p>ラマッラの提携団体“Nafs for Empowerment”(ナフス)と連携し、以下の事業内容を実施する。</p> <p><u>2-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施</u></p> <p>2-1-1. ワークショップの実施</p> <p>2-1-2. 最終発表会の実施</p> <p><u>2-2. 関係者・関係機関との連携</u></p> <p>2-2-1. 情報交換ミーティングの実施</p> <p>2-2-2. ワークショップの実施</p> <p>2-2-3. ニュースレターの配布</p> <p><u>2-3. 心理社会的ケアプログラムのファシリテーター育成</u></p> <p>2-3-1. ファシリテーター育成トレーニングの実施</p> <p>2-3-2. PSC ファシリテーターネットワーク(以下、ファシネット)のフォローアップ活動</p> <p><u>2-4. 心理社会的ケアプログラムの普及</u></p> <p>2-4-1. メディア活動</p> <p>2-4-2. 映画上映会の開催</p>

	<p>2-4-3. 心理社会的ケアシンポジウムの開催</p> <p>各活動の詳細は別添2参照。</p> <p>なお、両地区の活動において、活動内容の質確保および評価のため、日本から桑山専門家と田川専門家の2名をそれぞれ派遣する。各専門家の主な業務内容や派遣時期等の詳細は別添1および別添2参照。</p> <p>総裨益人口：9,151人（詳細は別添2参照）</p> <p>直接裨益人口：643人</p> <p>間接裨益人口：8,508人</p>
<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>1. <b>ガザ地区における心理社会的ケアの実施と普及、実践者育成</b></p> <p>1-1. <b>子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施</b></p> <p>1-1-1. ワークショップの実施</p> <p>1-1-2. 相互理解アクティビティ</p> <p>期待される成果1: PTSDの完全発症の予防および一部発症の場合は症状の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指標と目標 1-1. 一般健康質問紙（以下、GHQ<sup>2</sup>）：心の健康度を測るGHQをPCSプログラム前後に実施し、それぞれの平均値の差を比較するt検定において有意差を示すp値が0.05を下回る。</li> <li>➤ 指標と目標 1-2. PTSDチェックシート：PSCプログラムの開始後1-2か月と最後の1-2か月に同プログラムを実施するファシリテーターが自身の観察結果や保護者・学校関係者・子どもからの情報を基に記入し、事前チェックでチェック項目に当てはまった子どもについては事後チェックにおいてその項目数が1つ以上減少すること、事前チェックで当てはまる項目がなかった子どもについては事後チェックにおいても該当項目なしとなること。</li> </ul> <p>1-1-3. 最終発表会の実施</p> <p>期待される成果2：トラウマからの回復の最終段階である社会との再結合が実現する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指標と目標 2-1. 子どもたちへのアンケート：最終発表会後に実施し、半数以上の子どもが、最終発表会が社会との再結合に有効であったことを示す回答をする。</li> <li>➤ 指標と目標 2-2. 最終発表会参加者へのアンケート：最終発表会後に実施し、半数以上の参加者が子どもたちの発表を好意的に受け止めたことを示す回答をする。</li> </ul> <p>（期待される成果1と2共有）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指標と目標 3. ナラティブレポート<sup>3</sup>：世界の精神学会で主流となっているナラティブ（物語）評価を採用。2例以上の子どもたちの改善例を報告する。</li> </ul>

<sup>2</sup> GHQ：一般健康質問紙（General Health Questionnaire）。本事業ではGHQ12問版を桑山医師が子どもたちに合わせて改変した「Kuwayama-12」を使用し、便宜上こちらを「GHQ」と表記している。

- 指標と目標 4. 専門家レポート：事業の最後に提出してもらい、総合的に心理社会的ケアプログラムが有効であったと判断される。（西岸地区と共通）

#### 1-2. 関係者・関係機関との連携

期待される成果 1：関係者・関係機関との連携が強化され、関係者・関係機関の子どもたちおよび彼らが抱える問題に対する対応が改善されることで、子どもたちへのサポートが強化される。

- 指標と目標 1-1. 情報交換ミーティングの数
- 提携団体の幹部・スタッフとの意見交換会：各団体 3 回
  - 学校関係者との意見交換会：2 回
  - 家族意見交換会：各団体 2 回
  - 家庭訪問：各家庭 1-2 回
- 指標と目標 1-2. アンケート：半数以上の関係者・関係機関において PSC への理解向上や対応改善が見られることを示す回答をする。
- 指標と目標 1-3. ナラティブレポート：実施された対応や変化を 1 事例以上報告する。

#### 1-3. 心理社会的ケアプログラムのファシリテーター育成

期待される成果 1：PSC の知識と経験を持つファシリテーターが育成される。

- 指標と目標 1-1. 心理社会的ケアプログラム理解度テスト：ファシリテーター育成研修の後に実施し、全研修生が 7 割以上の点数を取る。
- 指標と目標 1-2. ファシリテーター能力評価：弊団体の PSC ファシリテーター（現地スタッフ）により評価を実施し、全研修生が合格ラインを超える。

期待される成果 2：各事業地において本来の効果的な PSC モデルが根付く準備が整う。

- 指標と目標 2. 研修生による本事業外での PSC の実施：2 事例以上報告する。

#### 1-4. 心理社会的ケアプログラムの普及

##### 1-4-1. メディア活動

##### 1-4-2. 心理社会的ケア説明会・映画上映会の開催

期待される成果 1：PSC プログラムの認知度が向上する

- 指標と目標 1-1. Facebook ページの投稿数：月 2 回以上
- 指標と目標 1-2. PSC 紹介動画を制作し放映する

<sup>3</sup> ナラティブレポート：プログラムを通して生じた変化を子どもたちの物語としてファシリテーターの視点でまとめた報告書

- 指標と目標 1-3. PSC 説明会・映画上映会参加者数：各回 30 名以上
- 指標と目標 1-5. 参加者アンケート：半数以上の参加者が、PSC 説明会とシンポジウムが、PSC プログラムを理解するのに有益であったと回答する

## 2. ヨルダン川西岸地区における心理社会的ケアプログラムの実施と普及、実践者育成

### 2-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施

#### 2-1-1. ワークショップの実施

期待される成果 1：PTSD の完全発症の予防および一部発症の場合は症状の改善

- 指標と目標 1-1. GHQ：PSC プログラムの事前と事後に実施し、それぞれの平均値の差を比較する t 検定において有意差を示す p 値が 0.05 を下回る。
- 指標と目標 1-2. PTSD チェックシート：PSC プログラムの開始後 1-2 か月と最後の 1-2 か月に同プログラムを実施するファシリテーターが自身の観察結果や保護者・学校関係者・子どもからの情報を基に記入し、事前チェックでチェック項目に当てはまった子どもについては事後チェックにおいてその項目数が 1 つ以上減少すること、事前チェックで当てはまる項目がなかった子どもについては事後チェックにおいても該当項目なしとなること。

#### 2-1-2. 最終発表会の実施

期待される成果 2：トラウマからの回復の最終段階である社会との再結合が実現する

- 指標と目標 2-1. 子どもたちへのアンケート：最終発表会後に実施し、半数以上の子どもが、最終発表会が社会との再結合に有効であったことを示す回答をする。
- 指標と目標 2-2. 最終発表会参加者へのアンケート：最終発表会後に実施し、半数以上の参加者が子どもたちの発表を好意的に受け止めたことを示す回答をする。

(期待される成果 1 と 2 共有)

- 指標と目標 3-1. ナラティブレポート：世界の精神学会で主流となっているナラティブ（物語）評価を採用。2 例以上の子どもたちの改善例を報告する。
- 指標と目標 4-1. 専門家レポート：事業の最後に提出してもらい、総合的に心理社会的ケアプログラムが有効であったと判断される。（ガザ地区と共通）

### 2-2. 関係者・関係機関との連携

#### 2-2-1. ミーティングの実施

#### 2-2-3. ニュースレターの発行

期待される成果 1：関係者・関係機関との連携が強化され、関係者・関係機関の子どもたちおよび彼らが抱える問題に対する対応が改善する。

➤ 指標と目標 1-1. ミーティングの数：

- 保護者：4回（カランディア 2回、ジャラゾン 2回）＋随時個別連絡
- 学校長およびスクールカウンセラー：12回（カランディア 女子 3回・男子 3回、ジャラゾン 女子 3回・男子 3回）＋週一ベースの情報交換
- 教師：8回（カランディア 女子 2回・男子 2回、ジャラゾン 女子 2回・男子 2回）
- UNRWA Camp Director：2回（カランディア 1回、ジャラゾン 1回）
- UNRWA Education Program：2回
- UNRWA Relief and Social Services Program：4回（カランディア 2回、ジャラゾン 2回）

➤ 指標と目標 1-2. ニュースレターの発行回数：2回

#### 2-2-2. ワークショップの実施

期待される成果 2：PSC プログラムやトラウマを抱えた子どもへの接し方について保護者の理解が深まる。

➤ 指標と目標 2-1. 参加者へのアンケート：WS の最後に実施し、半数以上が PSC プログラムおよびトラウマを抱えた子どもへの接し方について十分な理解を得たことを示す回答をする。

(上記期待される成果 1 と 2 共通)

- 指標と目標 3. ナラティブレポート：関係者・関係機関の対応改善例を 2 例以上報告する。
- 指標と目標 4. 関係者・関係機関へのアンケート：事業の最後に実施し、半数以上が本事業との連携が子どもたちや彼らが抱える問題への対応方法を見直すのに有効であったことを示す回答をする。

#### 2-3. 心理社会的ケアプログラムのファシリテーター育成

##### 2-3-1. ファシリテーター育成トレーニング

期待される成果 1：PSC プログラムの理解と実践スキルを有する人材が増える。

➤ 指標と目標 1-1. 心理社会的ケアプログラム理解度テスト：トレーニングの事前・事後に実施し、半数以上の参加者に点数の向上が見られる。

##### 2-3-2. 心理社会的ケアファシリテーターネットワークのフォローアップ活動

期待される成果 2：PSC プログラムの実践例が増える。

	<p>       ▶ 指標と目標 2-1. PSC ファシネットラウンドテーブルおよび同トレーニングの参加者数：20 名。（上記ラウンドテーブルとトレーニングはファシリテーター育成トレーニング後に PSC プログラムを実施した者を対象としている。）        ▶ 指標と目標 2-2. 心理社会的ケアプログラム理解度テスト：トレーニングの事前・事後に実施し、半数以上の参加者に点数の向上が見られる。        なお、上記ラウンドテーブルとトレーニングへの参加要件を満たす者が 20 名に満たない場合、PSC プログラムを実践していない者も対象とすることで、なぜ実践することが難しかったのかについて聞き取りを行ない、その課題点をレポートにまとめることとする。     </p> <p> <u>2-4. 心理社会的ケアプログラムの普及</u>        2-4-1. メディア活動        2-4-2. 映画上映会        2-4-3. 心理社会的ケアシンポジウム     </p> <p>       期待される成果 1：PSC プログラムの認知度が高まる        ▶ 指標と目標 1-1. 地元ラジオ局出演：3 回        ▶ 指標と目標 1-2. 事業 Facebook ページの投稿数：月 2 回        ▶ 指標と目標 1-3. 映画上映会参加者数：各回 80 名        ▶ 指標と目標 1-4. 心理社会的ケアシンポジウム参加者数：80 名        ▶ 指標と目標 1-5. 心理社会的ケアシンポジウム参加者に対するアンケート：半数以上の参加者が、同シンポジウムが PSC プログラムを理解するのに有益であったと回答する     </p>
(7) 持続発展性	<p>       PSC プログラムの過程で子どもたちの表現する感情や体験が「作品」という形で出力されるため、見た目にはわかりやすく、周囲からの理解はもちろん、周囲への刺激にもなり、ケアの波及効果につながる。        現地スタッフが中心となって PSC プログラムの実施およびファシリテーター育成をすることで、地元の人々によるケア手法の教授体制が確立され、事業終了後も提携団体や研修生およびファシリテータートレーニング参加者が活動を引き継ぎ、継続的なケアが行われると同時に、より広い範囲へ PSC の拡大を行うことができる。     </p>